



大幅賃上げ獲得 安全輸送を守れ 3・11 東京支部春闘行動を展開

東京支部は3月11日、新宿駅南口で駅頭宣伝行動を取り組んだ。総勢20人の組合員・OBが参加し、11時から40分間にわたって、「大幅賃上げ獲得」「JRは安全輸送の確立を」を訴え、チラシの配布を行ってきた。

また、常磐連絡会の仲間は3月4日、JR貨物隅田川庁舎前で朝ビラ配布行動を取り組んだ。同日、中央行動もあり、朝から通しで参加した仲間もいたことを報告する。諸行動に参加した仲間の皆さん、大変お疲れさまでした。



支部駅頭宣伝行動の様子



隅田川庁舎前の様子

東京支部当面の日程

第2回分会長会議 4月12日(土)10:30～地本会議室

- 内容 ①首都圏地本・東京地区本部発足に伴う組織整備について
②新入社員対策について
③その他

支部BBQ交流会 5月31日(土)10:30～13:30 新宿京王デパート屋上(参加費1,000円)
詳細は別途連絡

支部組織対策交流会 6月22日(日)～23日(月)ホテルニューアカオ(熱海)
詳細は別途連絡

3・15ダイヤ改正

首都圏の一部路線でワンマン運転が開始されます

JR東日本は少子高齢化に伴う人材不足、人手不足や就労意識の変化などを理由に首都圏の主要鉄道路線でワンマン運転の導入を開始すると発表しました。まずは2025年春から、常磐線（各駅停車）の綾瀬駅～取手駅間、南武線の川崎駅～立川駅間でワンマン運転を実施。2026年春から、横浜・根岸線の八王子駅～大船駅間で2030年頃までに山手線、京浜東北・根岸線、中央・総武線（各駅停車）、埼京・川越線においてもワンマン運転を実施する予定です。



現場から問題点や疑問が噴出

- 常磐線のワンマン化では10両編成を運転台のモニターのみでの対応。4・5両なら確認は可能かもしれないが、特に混雑時に10両編成すべてのドアの乗降確認・安全確保することは困難。
- 車いす対応時に使用するバディコム（インターネット通話）が回線混雑で繋がらない事が多々ある。今は車掌がいるので対応出来ているが、運転士に繋がらない時は列車停止ボタンを扱うと説明を受けた。列車停止ボタンは本来ホームから人や物が転落するなど非常事態が発生した場合の保安装置のはず。明らかにおかしい。
- 委託駅社員は電車のドアコックは扱えない決まりになっている。急病人が発生した場合など会社は「車内のお客さまにドアコックを扱ってもらう」と言っている。
- 線路点検・架線障害など乗務員が点検のため一定時間電車をはなれる時がある。司令が車内放送をするというが運行困難時に運用手配に忙しい司令がとても対応出来るとは思えない。



国労は安全・安定輸送を守るため闘います

主要路線のワンマン化が計画通り進めば、車掌約1100人の要員減となります。それだけの人員を別の創造的な仕事にシフトできるとしていますが、尼崎事故や過密な勤務形態などが要因となる一部路線で相次ぐ“運転士の体調不良”とオーバーランなど、運転事故はなくなりません。

国鉄労働組合は、安全で安心して利用できる公共交通を守るため、賃上げ要求と安全問題を結合して2025春闘を闘っていきます。

国鉄労働組合東京支部